

第14回統一地方選挙

# 689名の当選を勝ち取る

—協会系地方議員は36名増の935名に—

民社協会理事 伊藤郁男

第14回統一地方選挙は4月25日に終了した。民社協会はこの選挙において689議席(道府県会160、政令市会78、市会340、区会29、町村会82)を確保した。これによって民社協会系の地方議員数は中間地方選挙で確保している246名を加えて総数935名となった。選挙前の議席数が899名であったから36名増の勝利である。

今回の選挙では現役引退議員が101名もあり選挙結果に一抹の不安もあったが、各地方協会は友愛会との緊密な連携のなかで積極的に候補者を発掘し前回の788名を上回る793名(道府県会215、政令市会92、市会366、区会33、町村会87)の推薦候補を擁立して選挙に臨んだ。協会発足後の二回目の選挙であったが、協会の存続と友愛会の変わらない支援体制の継続とによって前記の戦果を勝ち取ることができた。とくに今回の選挙では若い候補者と新人(121名当選)が健闘し、また前職の執念の復活も目立った。この前職の復活(小田原の豊嶋輝慶、神戸の吉岡やすし、奈良の田尻匠の各県議、京都の宮本徹、広島が多田敏治の政令市議ら)にみられるごとく選挙勝利はたゆまざる



る日常の支持者獲得活動、不動の信念があつてこそ結実するのである。俄か仕立ての選挙では駄目なのである。

また、労働組合員の政治意識が多様化している今日、労組に頼り過ぎると意外の結果を招くこととなる。労組以外に幅広く支持者を広げていく努力が必要である。

なお民主党の公認で戦った候補者は793候補者のうち209名(26.4%)で当選した者は177名(道府県会57、政令市会55、市会49、区会13、町村会3)で、推薦で戦った者は293名(37%)で当選した者は245名(道府県会67、政令市会15、市会17、区会13、町村会33)であった。

また自由党の推薦で戦った者は38名で、当選した者31名(道府県会16、政令市会9、市会6)であった。(民主党公認・推薦との重複者も含む)

民社協会推薦第14回統一地方選挙結果一覧

選挙種別	立候補者数	当選者数	現職	新人	前・元職
道府県会	215	160	116	41	3
政令市会	92	78	62	14	2
一般市会	366	340	281	54	5
東京特別区	33	29	23	5	1
町会	77	75	68	7	0
村会	10	7	7	0	0
合計	793	689	557	121	11

現職・新人・前元職は当選者数の内訳